

**芭蕉と草加宿**

元禄2年(1689)年3月27日、松尾芭蕉は、門人の河合曾良を伴い、奥州に向けて江戸深川を旅立ちました。後に日本を代表する紀行文学「奥の細道」として結実するこの旅は、東北・北陸の名所旧跡をたどり美濃国大垣へ至る600里(約2400km)、150日間の壮大なものでした。



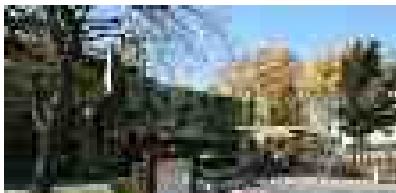
百代橋下

**百代橋**

草加松原にある、草加のシンボル橋で、昭和61年(1986)年11月1日に完成した和風の太鼓形歩道橋。松尾芭蕉の『おくのほそ道』冒頭の「月日は百代の過客にして...」にちなんで名付けられた。百代は永遠を意味している。

**東武鉄道松原団地駅由来**

草加駅から新田駅間の丁帳耕地と呼ばれた広大な水田地帯に建設されたマンモス団地、これが松原団地です。団地の名称は奥州日光街道の「草加松原」にちなみ、それに伴って駅も建設されました。現在、独協大学が開校し、各種文化施設も整備された文化都市として発展しています。



おせん公園

松尾芭蕉像 奥の細道旅立ち300年を記念して建立。元禄2年(1689)3月27日江戸深川を出立。像は見送りの人や門弟達との別れを惜しむかのように、千住方面を見返している。奥の細道の中に次のように草加の名が出てくる。「もし生きて帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日よう草加という宿にたどり着きにけり」



札場河岸公園

札場河岸 綾瀬川舟運の船着場で、所有していた家の屋号が「札場」であったことからそう呼ばれていた。また、この辺に高札場があったといわれる。船荷の上げ下ろし場(河岸)の石段が復元され、当時の雰囲気再現している。江戸時代、この川を利用して江戸に荷物を運んだ。

おせん公園 神明宮東側にある広場。公園にはせんべいに見立てた自然石の「草加せんべい発祥の地」が建ち、その隣にはせんべいを焼くときに使用する火箸に見立てた石があり、しだれ桜、桐などが植えられている。



神明宮

神明宮 「草加町見聞史」によると江戸時代の初め、宅地内に天然の石を神体として祀ったのが始まりで、正徳3年(1713)草加9ヶ村の希望により宿の総鎮守として現在の地に移されたと伝えられている。



**11 草加宿 ~ 越ヶ谷宿**

埼玉県草加市  
草加宿 ~ 松原団地  
(歩行距離 1706m 22分)  
歩く地図でたどる日光街道  
<http://nikko-kaido.jp/>  
JZE00512@nifty.ne.jp



松並木

松尾芭蕉文学碑 百代橋の北側に、「奥の細道」の草加の章段(しょうだん)が刻まれた松尾芭蕉の文学碑が建てられています。

千本松原 天和3年(1682)に関東郡代伊奈半右衛門が綾瀬川改修の時に植えたもので延長1.5km。明治初めで776本あった。

ハーブ橋 草加松原遊歩道と綾瀬川左岸広場を結び、幅8mの橋です。毎年11月に世界の著名なハーブ演奏者を招き、国際ハーブフェスティバルを開催し、音楽と文化のまちづくりを進めていることからこの名前をつけました。



矢立橋

矢立橋 平成6年(1994)5月に建設された、草加松原遊歩道に2つある太鼓型の歩道橋の一つ。長さ約100m、幅約4m。橋名は「奥の細道」の「行く春や鳥啼き魚の目は涙 これを矢立の初めとして...」にちなんでつけられました。左側に道標、下部が欠損して詳細不明「皇口」と読める

望楼 石垣上に建っている埼玉県産のスギ・ヒノキを使用した木造の五角形の建物。展望台まで自由に登れ(9:00~17:00)、草加市内や松並木を一望できる。

正岡子規碑 明治32年(1899)3月下旬、正岡子規は高弟高浜虚子を伴って、梅を見るために千住、草加を歩いている。「梅を見て野を見て行きぬ草加まで」

甚左衛門堰 明治27(1894)年から約90年間使用された二連アーチ型の煉瓦造り水門。建設当初の姿を保ち、保存状態もきわめて良好です。埼玉県の指定文化財で、河岸遺跡と共存する煉瓦造り水門としては県内で唯一のものです。



河合曾良像

河合曾良像 市制50周年を記念して、神明の公園予定地に市民により創建された。河合曾良はおくの細道で芭蕉に随行した芭蕉の門下生です。

**街道と松並木**

徳川家康は、幕府開府に先立って五街道をはじめとする全国の街道の整備を命じています。日本橋を起点とした街道沿いには、箱根や日光のように、杉や松が多く植えられ松並木として大きな景観を今に伝えている場所があります。幕府が街道沿いに松並木を設けたのは、常緑の松が夏は強い日差しを遮り、冬は暴風にと参勤交代などで道行く旅人たちを守ることで、街道の風致を求めたことにあるといわれています。

日本の道百選碑 1987(昭和62)年11月15日、草加松原の矢立橋近くに100選の顕彰碑が建てられた。碑は黒御影石製で、埼玉県をかたどっている。高さ1.75m、横3m、厚さ30cm。

伝右川 「宿内字伝右川有。幅大概拾間程、橋渡也。此川水元は武州足立郡玄蕃新田地内より流れ来り、流末は綾瀬川江落る」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)そして「日光道中行程記安見絵図」に書かれた神明宮のそばを流れる用水である。

こちらあたりが草加宿北の入口



東福寺

東福寺 草加宿の祖とされる大川図書が創建したと伝えられ、本堂・山門・鐘楼とも江戸時代後期の建造物。江戸における続物人情断の祖石井宗叔と其月庵社中の歌碑、大川図書や塔身上に酒樽を乗せた金玉道士の墓碑、成田山への道標などがある。